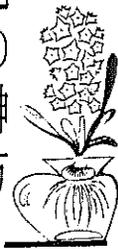


勝林寺寺報

長生不死の神方



お釈迦様が生まれに成りました。ルンビニ園に春の花が咲き競う四月八日でありました。春の花のなかから生まれだした王子さまのご誕生を、シャキヤ族の人たちは挙げてお祝いし慶びあつたのでしよう。ところがそのなかで一人、生まれだしたこのシャキヤ族の子を見て、さめざめと泣いた人がいました。アシダ仙人というお年寄りでした。慶びのさなか、一人涙をこぼすアシダ仙人をみて人々は非難いたしました。「このめでたい日に、なぜ泣くのか」アシダ仙人は申しました。「この王子さまのお誕生、めでたいし嬉しいし、第一なんともいいようのない程かわゆうございませう。このかわいなお子は、キツト将来、すばらしい王様か、それともすばらしい教えをお説きくださるシャキヤ族のムニ(聖者)となられるに違いないとせんと。このシャカムニが、尊いみ教えをお説きくださるその日まで、私は、この年寄り命がございませう。せつかくお生まれくださったこのシャカムニ王子さまの、教えを聞かずに死んでいかねばならぬかと思つと、ついつい泣かれてしまいました。」

私のうちにもこの春一月、男の孫が生まれました。まだ、寝てばかりの赤ん坊です。この子の成長をまたずに、先に別れていってしまったわなればならぬ悲嘆。ところが、アシダ仙人には聞かぬなかつたのでしようか。私には幸いに「大丈夫だよ。嘆くことはないのだよ」という親鸞さまの声が聞こえてくださるので。

如来さまの願いのなかに、恵まれた信心の世界に氣付かせていただいたなら、親も子も孫も、みな共に本願のなか。人の命には別れもあろうが、如来本願のいのちもろうたなかでは、みなみな「長生不死の神方」。死んでも死なないのちめぐまれたなかに、なんの別れなどあるものか。この孫と、お念仏のなか 永遠に切れなご縁をめぐまれたことをみじみもつたいなく思うのです。

西池深音ちゃん

初参式 おめでとう



西池深音(みね)ちゃんは、勝林寺の次男西池匡・美幸夫婦の長男として1989年1月28日出生しました。住職の孫です。三月二十四日、勝林寺でお彼岸会の勤まつた日、午後一時から本堂で初参式を挙げました。両親とそれぞれの祖母に抱かれて仏前にもうでた深音くんは、お祝いにお参りして下さった30名余りのご門徒のかたがたにやささかテレぎみでしたが、それでも元氣よくかしこく式を受けておりました。

連研修了式に参加して

坪口 中嶋 綾子

平成元年三月二十六日、ご本山におきまして第六期出石組連研修了式が行われ、組長さまはじめ各寺のご住職・坊守さまの引率のもとに、修了者五十五名が参列いたしました。幸い久しぶりの晴天に恵まれ九時過ぎ本願寺に到着し、直ちに修了式に参加しました。まず礼拝・勤行のあと組長さまより、わずかのあいだの学習ではあったが、今後はいっそう聞法と同時に念仏の友の輪を広げていく努力をしようとお励ましのごあいさつがあり、教務所長さまから修了証書を授与されました。引き続き本山研修部長様のご法話を拝聴しました。連研の目的は「めざめ」と決意ではなからうかと話されました。めざめ気付かせていただくには、「ゆさぶり」が必要で、その「ゆさぶり」が連研ではなかつたか。目を外にばかり向けるのではなく内に向け、どのような生活をしたらよいかに気付かせていただくことであるというお諭しでした。ともあれ私にとりましては、新たな心で聴聞し、私自身に氣付かせていただく機会を繰返し与えていただいたのが連研であつたと思ひます。修了証書はいただきましたが、子供のころにもらった修了証書とは全く反対で、これから聴聞への入門、聞法への励ましの証書と受け取らせていただきました。家の者や近所の方、町の人たちと誘いあつて阿彌陀如来のご本願を信じお念仏申し、お慈悲をいただいで生きることを喜び感謝して生き抜けたらと思ひます。式後、本山両堂に参拝し、書院を参観させていただいたり、知恩院や吉水草庵にお参りし、円山公園の三分咲きの桜をめでたり、本当にさわやかなご本山参りをさせていただきました。

四月のこよみ

- | | |
|------|-----------------------------|
| 一日 | 石田隆雄氏宅法事・信楽寺法事 |
| 二日 | 森戸康雄氏宅法事・奥地余男氏宅法事 |
| 三日 | 永井角治氏宅法事 |
| 四日 | 兵庫教区基推常任委員会企画推進委員会・光頭寺永代経 |
| 五日 | 光頭寺永代経・中川信氏宅報恩講 |
| 七日 | 出石組仏婦人連盟役員会(午前中)・評議員会(一時より) |
| 八日 | 出石組内会(勝林寺) |
| 九日 | 大石正和氏宅法事 |
| 十日 | 五日会(西方寺) |
| 十一日 | 兵庫教区仏婦連盟委員総会 |
| 十二日 | 奥地宅建築法要 |
| 十三日 | 出石組念仏奉仕団 |
| 十五日 | 出石組念仏奉仕団 |
| 十六日 | 中島繁氏宅法事 |
| 十七日 | 永井勝正氏宅法事 |
| 十八日 | 岸下正美氏宅法事 |
| 十九日 | 仏婦総連盟総会(京都) |
| 二十一日 | 十六夜会(真覚寺) |
| 二十三日 | 五日会降誕会(西方寺) |
| 二十五日 | 亀井家仏前結婚式 |
| 二十六日 | 長専寺法事 |
| 二十七日 | 恵信尼忌平和のつどい「みのりを聞く会」 |
| 二十九日 | 伝道布教研究会(東京) |
| 三十日 | 宗円寺永代経(名古屋) |
| | 横山梅乃氏宅法事 |
| | 春季研修修会 |
| | 観楓校会 |
- 二年間の連研といい今度の修了式といふ重ねがさねほんといよ目覚めの機会を与えていただきましたことを心から喜ばせていただいております。

大谷本廟

仏壇研修会に
参加して



小谷 谷垣 逸雄

「宗祖のご廟所に参拝し、く全員開法・全員伝道」という宗門人としての自覚を促し、「何とまああむずかしいことばで何も分からぬままに参加し、結局私なりに次ぎのように受け止めて帰ってきまし

この研修で学んだものを、私の日々の生活に生かし、実践しながらよく自身の信を深め、その信の喜びを、一人でも多くの方に伝えし、み法の輪を広げようではありませんかと

こんなことを聞かせてもらいました。

- ・「話し合い活動」という開法の仕方。
- ・社会の運転手としての仏壇の任務
- ・み教えに聞きながら歩む人生
- ・今、私に、生きて働いて下さる如来
- ・愚かなる我に目覚めて(非僧非俗)
- ・真宗は「聞く」にきままる。

など

伝道活動ということについてつぎのようなことを学びました。

- ・聞き味わったことを自分の言葉で友や家庭に伝えよう。
- ・法座には一人でも誘ってお参りしよう。
- ・進んで法座の推進者となろう。
- ・法座での自分の役割を見付けよう。
- ・聴聞したことを身近なところで実践しよう。
- ・まず人の悩みを聞かせてもらおう。

(おわび：谷垣氏からはもっと詳しい報告が寄せられました。紙面の都合で要約割愛させていただきます)

入学おめでとう 一年生おめでとう

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|
| 谷垣 徹 (小谷) | 兼井 敦司 (栗尾) | 田中 絵梨花 (同) | 坂本 奈美枝 (同) | 坂本 麻衣 (坪口) | 中嶋 大輔 (同) | 湯口 真弓 (榎見) | 湯口 章太 (同) | 湯口 直美 (同) | 長谷川 泰史 (東里) | 清水 美佳 (出合) | 関森 和貴子 (同) | 大石 ひろみ (市場) | 永井 拓郎 (矢根) | 足立 哲也 (鉢山) | 田中 康嗣 (小田) |
|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-------------|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|

お寺から「お数珠」と「本」とお贈り
ます

「門徒名簿」で調べましたが、もし漏れていたら至急お知らせ下さい。

素朴・簡単・即席
栄養・季節・節料理



一、トトりのおかゆ
萌えてたばかりのトトりは香り栄養とも野の野菜の王座。炊きあがった「白がゆ」に、細かくきざんだトトりを入れ、さっそくにいただきます。トトりの卵と春一杯が満喫できます。トトりの卵とじも。また豆腐にたっぷり薬味として、

二、焼きしいたげ
テッキでなければフライパンでも何でも良い。丸のまま焼く。しなっとなったら裏に醤油をたらして出来上がり。若い人ならバターでやっています。熱いうちにどうぞ。

三、いたどり (スカンポ・ダンジ)
皮をむいて小さく輪切りに。夜、寝るまえにボールのなかで適当に塩をしておくだけ。さわやかな朝食。
「かすあえ」もお試し下さい。

春季研修会のご案内

久方の 光のどけき春の日に
しづ心なく 花の散るらむ

有為転変、しずこころなく過ぎるなかで、春の一日、お念仏の同朋が会い寄って、睦あい語り合うひとときを持とうではありませんか。

期日 1989 (平成元) 年 4 月 30 日 (日)
PM 4 : 30

会場 勝林寺 本堂

会費 男 1,500円 女 1,300円
(「別紙地区別参加申込書」により仏壇評議員さんに取りまとめていただくことになっておりますので、会費を添えて申し込んで下さい。)

日程 4:30 受付
おつとめ
ソフトボール表彰式 (優勝・準優勝)
研修 「お念仏とボランティア」 (住職)
意見交換
6:30 観桜会
「カラオケ大会」

若婦人の会に
参加して

斎藤 昌子

三月五日、播州亀山の、お念仏五百年の歴史のある本徳寺のご本堂で、子育て真っ最中の七百人が集い、兵庫教区仏教婦人会連盟はじめての「若婦人のつどい」が開かれました。

会が始まる前に、「真宗宗歌」「帰依」「敬礼文」「さんだんのうた」「念仏」のうたの練習をして、若い人にピッタリの音楽拝礼が行われました。

広々とした本堂に、みんなの声をひとつにまとめて、厳かに唱和の声がひびき渡り、お念仏の道を共に手を取りあつて歩んでいる気持ちにひたりました。

兵庫教区教務所長小滝信先生と仏教婦人会連盟委員長加藤道子様のごあいさつを拝聴した後で、賛歌指導がありました。関西歌劇団団員OSK講師、園田学園講師でいらっしゃる坂田弘子先生の腹の底からのすばらしい歌声に、自分の声まできれいに聞こえて、「ほとけさま」

「友垣の輪をひろげよう」の歌をとても早く覚えることができました。

また、神戸東組ルンビニ合唱団・阪神北組コーラス部、阪神東組若婦香華コーラス部のきれいなハーモニーにこころの底まで洗われたようでした。

午後には、河内美舟先生の記念講演「母子育てに聞く」をお聞きしました。明蓮寺の坊主として、お念仏の光のなかで里親生活十一年。自閉児・情緒不安定児・ベトナム難民児を実子とともに養育されたバイタリテ・あふれる子育ての話に泣かされたり笑わされたり。家族のぬくもりや親の愛に恵まれない子供たちへの分けへだてない母の愛。そのさわやかななかにも感動的な日々の親子の触れ合いは、子育てとは何か、本当の愛とは、勇気とは何かを教えられたような気がしました。

すばらしい講師先生のお話しを聞かせていただき、二度と来ない今日一日一日を、大切に、喜びあふれたお念仏の道とともに手を取り合って歩んでまいりたいと念じたことでした。

コーラスや賛歌指導も楽しく、こころの通いあう若婦人のつどいでした。